

## 神の前に豊かになる

「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない。』と思い巡らしたが、やがて言った。『どうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言うてやるのだ。』さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ。」と』しかし、神は『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったい誰のものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

ルカ 12 : 15 - 21.

昨年の半ばから現在に至るまで、アメリカのみならず日本、ヨーロッパで1929年の世界大恐慌以来という未曾有の不景気に陥っています。また目覚ましい発展を遂げてきた中国、インドなどでも経済成長がマイナス成長になり、世界中で数千、数万という会社が倒産、百万単位で雇用が無くなり、多くの人が失業し明日の生活すら分からない状態になっています。一方では大きな損失を出したメリルリンチの役員がバンク・オブ・アメリカに吸収され、そこでも役員に納まり、挙句、巨額の退職金を手にして、新しいオフィスを百何十万ドル（一億数千万円）で設立しました。流石にこれはマスコミや社会が批判していますが……。因みにニューヨーク・タイムズで3年前のメリルリンチの会長や役員の年収がすっぱ抜かれ批判されましたが、会長が日本円に直してざっと43億円、彼に順ずる役職のエクゼクティブが36億円とまるで野球やフットボールのスーパースター達の複数年契約金のようなものでした。彼らの本来の会社から出る給料は2千5百万から5千万くらいですが、株売買の出来高払いボーナスが成績次第で加算され、ここまで膨大な額になりました。まだサブプライム・ローンが破綻する前で、彼らは人から預かったお金で、その何十、何百倍もの額で（実際にはあり得ない額に吊り上げ）物件を取引し、暴利を貪っていました。

その一方では、その日の食べ物も無く、途方に暮れている人々が数百万もいるのに、いったいどうしてこのような不条理が起こるのでしょうか？ 昨年ノーベル経済学賞を取った、プリンストン大学教授でニューヨーク・タイムズの経済欄担当のポール・クルーグマン (Paul Krugman) 氏が以前、簡潔に「余りにも多くの方が自分の利益ばかり求めた、その貪欲さ（意地汚い、がめついの方がより訳としては適当かもしれません）が原因。」と語っていました。世界経済は市場原理主義自由経済によって、儲ける事が全て、自由競争の中で資産を多く持ったものが勝ち組で、財を成せない者は負け組と余りにも、物欲に傾き、このような結果を招きました。私は若い頃から「幸せは金では買えない」と言ってきましたが、今は「不幸はお金への強欲から生まれる。」も付け加えたいと思います。

実際、少数の強欲な人間のおかげで、まず弱い立場の派遣、契約社員から首を切られ、更には正社員たちも会社の都合であっさりと解雇を言い渡される。そんな中であってまだ人を蹴っても財をなすことが人生の成功と信じているとしたら、よほど御めでたい人か学ばない人でしょう。・・・この原稿を書いている1月29日に昨年末のウォール街の金融関係企業の役員達のボーナスの合計額が200億ドル（2兆円）で、これは景気が落ち込む以前2004年度のボーナスと同額とのこと。巨額の赤字を出し、公的資金援助数千兆円を受けている金融関係者のこの異常なボーナスにオバマ大統領派 Shameful 「恥ずべきこと、破廉恥（意訳）」と非難しました。このような人間が千万単位の人々の財を食い尽くしている。19世紀の人、マルクスが正しかったことを21世紀に生きる私達は、またしても証明してしまいました。愚かで学ばない人間！

人間の生活は科学が進み、多くの病気が克服され、便利な物が数多く発明され、生活もほんの50年前とでさえ比べられないほど豊かになりました。しかし物を沢山もっていることが人の心を豊かにしてくれるのでしょうか。勿論、貧困に喘ぎ日々の生活は労働に追われ、家に帰ってきてもただ寝るだけ、のような生活をしているよりは、多少なりともゆとりがある方が、趣味の時間を持ったり、旅行に行ったり、娯楽を楽しんだりできますので、その意味では無いよりも在った方が良くに決まっています。しかし、色々なことを経験して学んだり、より多くのことに

関心を持ち、驚きをもって学び、知ることと物質量はあまり関係ありません。

国内、海外と、あちこち旅行に行きそれを自慢する人が時々いますが、その多くは「ガイドにあるどここのお店に行った。」「どここの何々は美味しかった。」とか「どこそこはとても綺麗だった。」「どこそこの観光名所はとても混んでいた。」等、そんな話が多く、その地方の人と交わり、どのような文化、生活があるのか学んだり、多少なりとも語学を学んで、その国の人と交流したり、どのような文化があったのかを語る人はごく稀です。お金ができて豊かになり、資金的にはどこにでもいけるようになったことを真に有効利用しているのではなく、単にそのお金を使って、何か美味しいものを食べた、或いは有名店で高級な物を買った、だけに過ぎません。「一体あなたは何を見て、何を学んで帰ってきたの？」と訝しく思います。もっとその旅先で学べることは沢山あったでしょうに・・・。

自分の為のみに富を蓄えたり、一時の悦楽の為に富や時間を無駄遣いし、神の前に富まない人生はなんと空しいことでしょう。神の前に豊かになるとは、充実した人生を送ることとはどういうことでしょうか。つくづく考えさせられる今日この頃です。

吉松 純

## 日本語礼拝は毎週午後 3 時から礼拝堂で守っています。

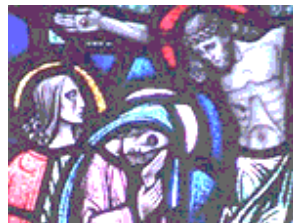
- 2月 1日：礼拝、聖餐式、Jr. 教会、節分  
8日：礼拝、Jr. 教会、アメリカ建国とキリスト教  
15日：礼拝、Jr. 教会、大統領とキリスト教  
22日：英語礼拝、午前10時30分と合同。  
日本語礼拝はお休み。
- 3月 1日：礼拝、聖餐式、Jr. 教会、桃の節句に合わせた料理

### 報告：

- \* 吉松牧師夫妻は2月18日（水）より2月27日（金）まで、ハーベスト・タイム主催の聖地イスラエル旅行に参加します。
- \* 留守中、2月22日の聖日礼拝は午前10時30分の英語礼拝と合同になります。ゲスト・スピーカーは合同メソジスト教団のビル・アルバータス牧師です。アルバータ

ス牧師はクリスチャン・カウンセラー牧師として長年活動され、多くの精神的悩みを抱える方のカウンセリングをし、引退後も牧師のカウンセリング・グループなどを指導されています。

- \* 同22日の日本語礼拝はありません。ご了承下さい。
- \* 2月25日（水）から受難節が始まります。受難節中、毎週木曜日午後7時より、英語のプログラムですがパンとスープの食事と聖書の学びが始まります。今年は「キリストの十字架の七言」を学びます。第一回は3月5日です。



- \* また日本語の聖研も希望者が3名以上あれば受難節中再開します。詳細は吉松牧師まで。

御協力お願い致します。献金のあて先は UMC-JA とし、寄付のあて先を Note に記してください。

- \* サマーキャンプの為
- \* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
- \* 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOC S）に送ります。JOC S海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- \* ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さんの為に特別献金をしています。ご協力下さい。
- \* パターソンの St. Philip 伝道と社会福祉団体 CUMAC / ECHO の為に、どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

### 教会の住所：

The Church of the Good Shepherd, UMC.  
326 New Bridge Rd. Bergenfield, NJ 07621  
英語オフィス (201) 385-4100  
ホームページ：<http://umc-japan.org>  
牧師館：(201) 338-2744  
吉松牧師 [junyoshim@optonline.net](mailto:junyoshim@optonline.net)  
教会学校担当：吉松 泉姉  
[izumi.yoshimatsu@gmail.com](mailto:izumi.yoshimatsu@gmail.com)